

全日本教職員組合 養護教員部ニュース

2017年4月

No.122

発行：情宣部

2017年度政府予算の成立にあたって



1. 2017年3月27日、2017年度政府予算が成立しました。5年連続で過去最大となる総額97兆4547億円（前年度当初比0.8%増）です。文部科学省の一般会計は5兆3183億円、文教関係予算は4兆428億円となり、前年度当初比0.2%減となっています。35人以下学級の推進や教職員定数改善には背を向け、多くの子どもたちを競争と管理に駆りたてる安倍「教育再生」をさらに押しすすめる教育予算となっています。
2. 教職員定数については、加配措置してきた発達障害等の児童生徒への「通級による指導」や外国人児童生徒教育の充実等のための定数を基礎定数化し、小学校専科指導の充実などの新たな加配定数の改善により868人の定数増を計上しています。しかし、少子化や学校統廃合による自然減があるため、教職員定数は3282人の削減となっています。また、国民的願いである35人学級の前進については触れておらず、高等学校や障害児学校の定数改善にも背を向けたものになっています。
3. 養護教諭の定数増要求に関わって、概算要求では「『チーム学校』の実現に向けた次世代の学校指導体制の基盤整備」として、養護教諭をはじめ学校事務職員、栄養教諭等を合わせて300人増となっていました。政府予算では70人（うち養護教諭は10人）に抑制されています。しかも、加配定数であるため、2018年度以降の定数については一切担保されていません。
4. 大学生等への奨学金について、返還不要の「給付型奨学金」制度の18年度導入をはじめ決定しました。これは、世界でも異常な高学費の保護者負担軽減と教育の機会均等の保障を求めて長年にわたって展開されてきた国民的運動と世論の力によるものであり、国の制度として初めて「給付型奨学金」が導入されることを歓迎するものです。しかし、その対象人員は極めて限定的です。貸与奨学金の即時無利子化と、一切の条件を冠しない給付制奨学金の創設・拡充を強く求めます。

(米田 雅幸)

北海道・東北ブロック学習交流集会

2月18～19日、宮城県高教組主催「冬の教育講座」の専門分科会と共催し、宮城県川渡温泉で開催しました。分科会は2部構成で、第1部は2016年度から導入された「四肢の状態検査」に関連して「いずみ整骨院」院長の鈴木崇晃先生から「整骨院の現場から診る身体の傾向」というテーマでお話を伺いました。整骨院で気になる子どもの様子について、子どもたちの外遊びや体を動かす遊びが減り、ゲームが主流となっていることで、「姿勢の悪さや体幹が弱くなっている」「体が硬い」「子どもでも腰痛がある」などのお話がありました。また、姿勢の改善や腰痛予防のために骨盤の位置を正す体操や筋力強化の運動を実際に行い、自分の体を通して学びました。

第2部では、セラピストの資格を持つ宮城高養護教員部員を講師に「ハンドマッサージ」の実習をしました。養護教諭は手当をする（＝体に触れることができる）仕事です。ハンドマッサージは短時間で子どもとかかわれる方法の1つです。小学校勤務時代には絵本を読み聞かせてから計測をしていたという講師から、絵本『わたしの手はおだやかです』の読み聞かせの後、ペアになり、ワセリンにラベンダーの精油を混ぜたクリームでゆったりハンドマッサージの方法を学びました。『わたしの手はおだやかです』は体について深いメッセージを感じさせる素敵な絵本でした。ハンドパワーで疲れも取れ、癒されました。

全体の夕食交流会後、宮城高の先生から6年前の東日本大震災で被災された体験をお聞きしました。地震発生時とその後の津波からの避難の様子や職場の対応、お子さんが当時のことを書いた作文など、今でも生々しく伝わってきました。各県からも当時の体験や保健室の対応などを語りあい、命の重みへの思いを共有しました。学習と夕食交流会と温泉と充実した学習交流集会でした。

(田端深雪 笠原貴美江)



保健室からの発信 in 東京

2017 夏の全国学習交流集会

と き：2017年7月29日・30日

と ころ：全電通労働会館
全国教育文化会館



記念講演

子どもたちの未来のために
わたしたちができること
～学校・家庭・社会における
子どもの人権の視点から～

講師 弁護士 山下 敏雅 さん

自主講座

性別で見る多様性と人権

～見えない/見せないしんどさを
抱える子どもに向き合う～

講師 ダイバーノン代表 飯田 亮瑠 さん

集会要項を5月中に発行します。みなさま、お誘いあわせてご参加ください。

関東ブロック学習会



12月10日(土)、東京 全国教育文化会館4階会議室において、「なゆたふらっと」という不登校の子どもたちの居場所活動を続けている運営スタッフの佐藤崇さんを講師にお招きし「子ども食堂のとりくみについて～地域の大人と子どもが会う場所～」と題して講演会を開催しました。

「なゆたふらっと」というのは練馬区で子どもの居場所づくりにとりくんでいる団体で、2014年に子どもと大人が「食」を通じて時と場所を共有する「石神井ゆうやけ子ども食堂」を開きました。

子ども食堂は子どもの貧困が社会問題化する中で食事の提供だけという目的だけでなく、活動場所を共有する、大人と子どもの温かいかわりを大切にする場所として活動をしています。

子どもの貧困や子ども食堂が注目されている昨今だからこそ、登校を前提としない居場所やある種の逃げ場所の持つ意味を考えていきたいという佐藤さんの話に、「現在の学校が冷たい、学校は弱い子を追い込んでいるのでは、子どもたちの笑顔を絶やさないためにも学校以外の場があることを広めたい」「学校が子どもにとって one of them であることを改めて感じた。学校や地域がつながり、どこであっても全ての子に居場所があるならそれでいい」という共感の感想がありました。人は人とかかわりの中で育っていくということがいかに大切で、今最も求められていることだと痛感しました。

今後も各地の子ども食堂の広がりや活動に注目していきたいと感じる講演会でした。
(廣瀬ひとみ)



養護教諭の定数増要求署名のとりくみ

定数増要求署名にご協力ありがとうございます。昨年は4万9309筆を文部科学省に届けました。今年は3月11日現在、18の組織から1万790筆が集まっていますが、昨年の同時期の1万4848筆には及びません。交渉により前進した地区もありますが、大規模校等における複数配置、正規配置の充実、未配置校の改善などまだまだ課題は多く、みなさん一人ひとりの力が必要です。数は力！身近なところから声をかけ、引き続きとりくんでいきましょう。



署名用紙は全教HPからダウンロードできます。一筆でも一枚でも、全教本部に送ってください。



総括アンケートにご協力ありがとうございました！



年度末のお忙しい中、2016年も総括アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

組織強化のとりくみでは、多くの組織で養護教員部総会や大会の開催にあたり、健診が終わった時期や土曜開催にして出席しやすい工夫をしています。常任委員会も年数回実施し、支部内の情報交流に役立っている組織もありました。組合員の拡大では、近隣の未組合員に学習会の案内や資料の提供、質問や相談にのり、地区を超えてのつながりが増しているという秋田高をはじめ、どの組織でも学習会や夏学の案内や参加の呼びかけが、組織拡大の機会となっていました。

教育委員会との交渉では、養護教員部単独で交渉を行っている組織、女性部や本部と一緒に交渉している組織があります。岡山高は「看護師報酬単価の引き上げ」が前進し、埼玉高では「養護教諭の妊娠時加配として、繁忙期に一人配置の養護教諭に週20時間の非常勤加配」が実現しました。また、交渉をしても変わらないことが多いけれど続けていくことが大切だと頑張っている岐阜、交渉では保健室や学校の実態や子どもの様子を共有している北海道、現場の状況を伝えるために、各支部から意見を聞いたりアンケートを取ったりして要求書を作り交渉にあたっている組織も多くありました。

学習活動は各組織で積極的に実施されました。埼玉高と佐賀高では色覚に関する講演会、奈良は運動器検診、東京と岡山高では子ども食堂をテーマに取り上げました。

健康を守るとりくみでは、衛生委員会の設置はすすんできましたが、開催や仕事内容についてはまだ地域格差や課題があります。産業医完全配置を要望してきた佐賀高は、今年度全校配置となりました。岡山高では、養護教諭も衛生委員会のメンバーになって、多忙化解消にとりくみました。

定数増署名については、各組織目標署名数を決めてとりくんでいる最中です。養護教諭部員1人10枚(50人分)目標を立てた埼玉に力強さを感じました。(重松 陽子)



<2017年度の予定>

*今からスケジュールに入れておいてください。

- ☆ 6月11日(日) 第27回全教養護教員部定期総会 於：東京 全国教育文化会館地下1階
(JR市ヶ谷駅、四ツ谷駅下車徒歩7分、東京メトロ有楽町線麴町駅下車徒歩2分 日テレビル向かい)
- ☆ 6月12日(月) 中央要請行動(文部科学省交渉、厚生労働省交渉)
- ☆ 7月29日(土)～30日(日) 夏の全国学習交流集会 in 東京
- ☆ 11月12日(日) 第28回全国委員会 於：東京 全国教育文化会館
- ☆ 11月13日(月) 中央要請行動(文部科学省交渉、議員懇談)

